現代歌人の作歌法

坂井修一

（短歌） 歌林の会
http://members.aol.com/karinhp/karin.html

東京大学大学院工学系研究科電気工学専攻
http://www.mtl.t.u-tokyo.ac.jp/～sakai/
email: sakai@mtl.t.u-tokyo.ac.jp

概要

短歌は５、７、５、７、７の５句３１音を基本とする日本固有の定型詩であり、その歴史は１３００年を越える。ここでは、現代短歌（通常昭和２０年代以後の短歌をいう）に的を絞り、以下のようなトピックについて実践的・経験的・状況的なお話をすることで責務を果たしたい。

1. 現代短歌の代表的な作風と鑑賞のありかた
   塚本邦雄、岡井隆、馬場あき子、河野裕子、俵万智など
2. 作歌支援ツールとその利用法、問題点
   - PC、電子化辞書（広辞苑、百科辞典、電子地図など）[1]、WWW
   - 旧仮名（変換）、古典文法、漢字不足、縦書き、ルビ、旧字などの問題
   - PC（ワープロ）の利用がもたらした効果： 便利さ以外に発想において変化がみられたかどうか
   - 今後ほしい道具立て
     - データベース： 古典和歌から現代短歌まで。各句による検索。統計データの収集など
     - 類想歌チェッカー： 盗作と思われないために
3. 現代短歌における発語法
   工学研究者としての精度を求めない、という条件のもとで、経験的に言えるところまで述べる
   計算機工学と短歌の発想法の差なども同様。さらに、添削（デバグ？）について。
4. インターネットを通した短歌活動
   「短歌」ホームページ、歌人メーリングリスト、結社内の活動、ML を利用した歌会・批評会
5. 短歌における情報処理システムの将来
   原理的なこととツールとしてのこと。処理速度・容量・快適さ、知的情的支援
6. コンピュータに短歌は作れるか？
   これは、私からのAI関係者の皆様への質問として出しておきたいと考えます。問題のありかを作家の立場から具体的にすることはできるかと思います

なお、演者は、(1) 現代短歌についていくばくかの実作・評論経験をもつ、(2) 古典和歌については素人愛好家かそれ以下の経験・知識しかもたない、(3) 電子計算機アーキテクチャの専門家である、(4) 自然言語や芸術に対する人工知能のアプローチに関しては知識も経験もない、という立場であることを悪しからず御了承願いたい。

[1] 俳句の場合、電子化歳時記なども使われている